

藤沢

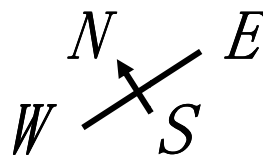
# エコネット

2015年3月1日

第250号

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット



主な記事

- ・市民型エネルギーの地産地消
- ・「日本と原発」を観て
- ・武田問題 大清水排水受入協定書審議不要
- ・リフレッシュ活動6回 ・放射能測定値

[http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa\\_econet/](http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/)

事務局 e-mail: [aoyagipc@jcom.home.ne.jp](mailto:aoyagipc@jcom.home.ne.jp) 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

## 再び、ごみ有料化を市議選挙の争点に！

藤沢市議会選挙が迫っています。4年前、われわれ市民団体は、「ごみ有料化を市議選の争点にしよう」と訴えました。しかし、この4年間、有料化は相変わらず続いています。今度の市議選には、市民の声を反映した選良（市議）を選びたいものです。

ごみ有料化の現状について、全国の有料化実施率は62.6%、神奈川県は、「藤沢市と大和市」「二宮町」だけが有料化し、実施率は、9.1%。有料化人口比率で見ると、全国では、40.7%、神奈川県では7.5%であり、藤沢市は100%となります。

ごみ袋の単純従量制・大袋40L1枚の価格帯別都市数でみると、10円未満から、90円以上まで10段階あり、80円以上の市は、北海道30、東京9、兵庫2、福岡1、神奈川1（藤沢）です。ごみ1人1日当たり排出量は、藤沢市906gで、周辺市とさほど変わりはありません。

藤沢市は、自主財源比率が全国で8番目に高く（平成25年度74.64%）財源はあるはずなのに、市民が、袋代を無料の周辺市民より年間5億6千万円も余計に強制的に徴収されているということは、早急に格差是正する必要があるのではないかと。

藤沢市ごみ有料化裁判で法令解釈の判断をしなかった最高裁決定について、原告としては、地方自治法上の立法上裁量の問題だと言外に言っているものと解釈し、各自治体が、その地域に適合した、廃棄物条例を制定改廃することは当然出来ることだと思います。

この度、日本共産党藤沢市議員団が、市議選挙政策に「ごみの有料袋は廃止をめざし、当面半額に引き下げを」提案しています。是非、他会派立候補者も対応政策を掲げ、再びごみ有料化を市議選の争点にできないか。

市民の側も、ごみ有料化の現状を把握して、市議選挙に臨みたいものです。

(諏訪謙司)



引地川の給水管で休息するカモメ（矢板氏提）